2003.6.23

エネルギー･文化研究所 濱 惠介

ホームプロ・メールマガジンコラム連載

「エコで楽しむ住宅改修」 第１回

エコロジーとエコノミー

これから月１回のペースで一年間、環境を守ることを意識した住宅づくりの考え方と方法をお話ししたいと思います。

生物が環境に適合し他の生物と調和を保ち生息する様を、ドイツの生物学者ヘッケルはエコロジー（生態学）という学問に体系付けました。１８６０年代のことです。この用語は、工業化社会の矛盾が大きくなった１９７０年代から、人類が自然環境との調和を保つ社会で生きることの代名詞として使われ始めました。「環境共生」と訳され、単に「エコ」とも言われています。

エコの語源はギリシャ語のオイコス（家）で、エコノミーのエコも同根です。エコノミーは家事を上手に切り盛りすることから発展し、「経済」を意味するようになりました。今ではもっと単純に「安上がり」を意識させます。

さて、「エコハウス（環境共生住宅）は素晴らしいけれど、お金がかかるのでは・・・」とお考えではありませんか。エコロジーとエコノミーを同時に達成する方法はあるのです。そもそも我々と子孫の未来を危うくしている地球環境破壊は、せいぜい過去半世紀の間、先進国の人類が資源を大量に消費する生活をしたからなのです。もっと節約して質素な暮らしをすれば環境破壊の度合いは小さくなります。

とは言いながら、一旦手に入れた快適さ・便利さは簡単に手放せないものです。では、どうすれば環境を傷つけないで満足のゆく暮らしができるのでしょう。なかなか難しい課題ですが、身近なところから考えてみましょう。

まず、無駄に消費し捨てているものはありませんか。誰もいない部屋での付け放し照明や家電製品、車のアイドリング、過剰な包装、食べ残しや賞味期限切れ食品、まだ使えるのに飽きられて廃棄される衣類・家具・自動車など。それらに加えて最大級の無駄は、わずか２、３０年で取壊される住宅です。

住宅の大きさは広さで考えますが､重さがどのくらいあるかご存知ですか？ 大まかに言って１００㎡の木造だと４０㌧から８０㌧あるようで、鉄筋コンクリート造になると１５０㌧を超えます。日常の生活ゴミ一年分は一世帯当たり約０．８㌧ですから、取壊された住宅から出る廃棄物は、生活ゴミの５０～１００年分に当たることになります。いかに大変なことか実感できるでしょう。

ですから、今ある住宅を壊さずに改善しながら長く使い続けることができたら、それだけでもエコロジカルなのです。その際に断熱を良くしたり自然エネルギーを上手に利用できるようにしたら、一層効果があがります。モノを大切に使い、廃棄物を減らし、省エネルギーに心掛ける。これが環境への負荷（悪い影響）を減らす基本です。

エコロジカルな住宅改修には大きなお金がかかる場合もありますが、「環境を守りたい」という気持があれば、お金をあまりかけずに効果のある方法も色々あることが分かってきます。環境に良いものを住まいに取り入れ、無駄をなくし、自然のリズムに沿って爽やかに暮す。どうでしょう、エコロジカルで同時にエコノミカルという理想が見えてきませんか。

エコは家、ハウスも家。と言うことは、環境と共生する家「エコハウス」は世の中で最もエコの本質に近いところにある存在かもしれませんね。